

# 『自然』ってなに？

学校ビオトープや園庭ビオトープの取り組みのなかで、「自然のもの」と「自然ではないもの」の区別が曖昧になっているケースが時折みられます。より充実した“ビオトープ”の活動のため、これらの区別をもう少しだけ意識してみてください。



## 「自然のもの」と「自然ではないもの」を、きちんと区別しましょう。

「自然のもの」とは、遠い昔からその土地にすみついている野生の生きもの、在来種と呼ばれているものです。それはその地域の特徴そのものであり、地域の伝統や文化のもとになっているものでもあり、つまりは郷土を愛する心のもとになっているものです。

「自然との触れ合い」といったコンセプトも、「自然」という言葉を「自然のもの」に置き換えてみれば、より深く理解できるのではないかと思います。

一方の「自然ではないもの」は、人の手で他の土地からもってきた外来種や、楽しむために人が作りだした園芸種、米・野菜・果物などの農作物、動物ならばペットや家畜などの飼育・愛玩動物などがそれに当たります。

トマトやさつまいもを育てる農体験、にわとりやヤギなどの飼育活動、パンジーやチューリップなどの栽培活動は、子どもたちにとって大切な体験です。しかしそれらは「自然との触れ合い」とは目的が異なります。

### 「自然のもの」の例

シジウカラ、ツバメ、アマガエル、ニホントカゲ、アゲハチョウ、ヤマトシジミ、カブトムシ、ナナホシテントウ、アブラゼミ、エンマコオロギ、オオカマキリ、オンブバッタ、シオカラトンボ、ドジョウ、メダカ、ホトケノザ、スギナ(つくし)、スミレ、カタバミ、ガマズミ、エノコログサ、ススキ、ヤマハギ、フジバカマ、アケビ、カラスウリ、ヤマザクラ、コナラ、エゴノキ  
…など、もともと地域にいるさまざまな野生の生きもの

### 「自然ではないもの」の例

#### 飼育・愛玩動物

にわとり、チャボ、あひる、あいがも、ハムスター、モルモット、フェレット、いえずぎ、犬、猫、馬、牛、ひつじ、やぎ、金魚、錦鯉、ヒメダカ  
…など

#### 園芸種、農作物

コスモス、ひまわり、チューリップ、パンジー、あさがお、おしろいばな、稲(米)、大根、人参、ねぎ、ゴーヤ、ピーマン、トマト、ミニトマト、キャベツ、とうもろこし、さつまいも、いちご、さくらんぼ、みかん、ブルーベリー、桜(ソメイヨシノ)、芝生  
…など

#### 外来種

アメリカザリガニ、ウシガエル、外国産のクワガタムシ、アライグマ、ブラックバス、ブルーギル、ゲンゲ(レンゲ)、シロツメクサ、セイタカアワダチソウ、オオキンケイギク、キショウブ、クレソン、ホテイアオイ、シダレヤナギ  
…など

※ この「自然のもの」の例は、主に関東の平野部を基準としたものです。しかし、日本の自然は実にバリエーション豊か。これらは多くの土地で「自然のもの」に当たりますが、地域によっては「自然ではないもの」になってしまうことがあります。まずはご自身の住む地域の自然について調べてみましょう。

自然のものと、自然ではないもの。区別できないとどうなっちゃう…？

- ・自然がどういうものかわからなくなります。だから、“正しい自然観”を持ってなくなります。
- ・正しい自然観がない人が増えると、地域に「自然ではないもの」が持ち込まれ、自然がもっと壊されてしまいます。
- ・地域の伝統や文化が何に基づいているのか、分からなくなってしまいます。
- ・そして地域の特色を見いだせず、郷土を愛する心が育たなくなってしまいます。

じゃあ、どうすればもっと自然に近づける？自然と触れ合える？

- ・近隣の草地から野草の種を少しだけでもらってきて、育ててみましょう。土をもらってきても面白いかも。野草の種がたくさん眠っています。
- ・緑のカーテンはあさがおやゴーヤより、アケビやカラスウリなど地域の野生のツル植物を。もともと地域にいる、いろんな生きものたちが訪れてくれます。
- ・野菜や園芸種を育てることが、悪いことではありません。たとえば、それらは学校・園庭ビオトープの中には含めず、ゾーンを分けて扱きましょう。

